

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらヴィスト富山二口教室		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 28日		2025年 12月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団にあった個別支援計画が立てられている。	<ul style="list-style-type: none"> 特性を含め成長や課題をチャットで共有している。 2か月に1回個別支援計画から支援計画目標表を作成し、目的の共有を行っている。 経験や知識の豊富なスタッフ(正社、パート)が多いため、子どもに関わる際、多種多様な方法でアプローチがされている。 	個別支援計画を作成する際、実際の支援の中に組み込むことで、より計画に沿った支援をすることができる。
2	集団活動の立案をチームで行っている。	前々月に集団活動で実施したいプログラムを募集し、児発管が集計し集団プログラム予定表を完成させている。	頻度を決めプログラムの検討を行ったり教材研究の時間を設ける。
3	個人情報に注意している。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や外部のお客さんが入る支援室には名前と顔が一致される張り出しはしていない。 個人情報などが記載された書類の持ち出しはしていない。 	個人名が記載された書類は伏せるなどの基本的な意識を日頃からの声掛けで防ぐ。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の人数に対し支援室が狭く、活動に限られる。	人数が多い日や体の大きな利用者が多い日、集団活動の行動範囲が広い日は部屋が狭く感じ、思うように体を動かすことができなかつたり安全に配慮することが難しいことがある。	<ul style="list-style-type: none"> パーティションを使用し活動を分けたり実施時間をずらしたりするなど、活動したい気持ちを受け止め十分に体を動かせる環境を確保し、安全に活動が行えるようにする。 日頃からヒヤリハットやインシデントなどの振り返りを丁寧に行い事故防止に務める。
2	支援時間が長い。	送迎に出たり、勤務時間が短いスタッフと時間を合わせることで難しく、支援後に全員で情報共有の時間が取れない。	<ul style="list-style-type: none"> 月に一度ほど確定した情報共有の場を設ける。 毎日固定された時間に残っているスタッフで終礼を行い情報共有を行う。議事録をチャットで残し、終礼に参加できなかったスタッフに共有する。
3	保護者会	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や担当外のスタッフにとって、年間計画や内容がわかりづらい。 現在特定のスタッフ(児発管2人)が実働している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を作成する。 役割分担表の作成をし、スタッフの保護者対応力を上げる。